

令和元年11月25日

保護者の皆様へ

コミュニティ・スクール那珂川北中学校

校長 古澤 裕二

PTA会長 衛藤 政博

SNS利用に関する注意喚起のお願い

向寒の候、皆様におかれましては益々ご健勝のことと拝察いたします。

さて、SNSに関してはこれまでも様々な問題が指摘されていますが、先日起こった事件においてもSNSがきっかけとなっています。その事件とは、ニュース等でご存じと思いますが、今月17日から行方不明だった大阪市住吉区の小学6年の女の子が24日に無事保護され、誘拐容疑で栃木県に住む35歳の男が逮捕された事件です。容疑者の男は、今月10日ごろ、SNSを通じて女の子と知り合い、女の子の自宅近くの公園に誘い出し、栃木県まで連れ去っています。

このSNSとは、「ソーシャルネットワーキングサービス」の略で、インターネット上でさまざまな人と交流することができるサービスの総称です。具体的には以下のようなものです。

- 中高生に人気があるのは、TikTok(ティックトック)、MixChannel(ミックスチャンネル)、YouTube(ユーチューブ)、SNOW(スノー)、Snapchat(スナップチャット)、Twitter(ツイッター)、Instagram(インスタグラム)等です。
- 中高生にはそれほど人気はないものの、定番なのがFacebook(フェイスブック)です。
- LINE(ライン)もSNSの一つで、特定のメンバー同士のみでメッセージや情報を共有する「クローズなSNS」と言えます。
- そのほか、オンラインゲームのチャット機能、ブログや掲示板サイトも含まれ、大きな括りで言えばどこまでをSNSとするかは難しい状況です。

総務省の平成29年の調査では、13歳~19歳のインターネット利用率は約97%で、スマートフォンの保有率が約80%となっています。また、同じ年齢層のSNSの利用者の割合は90%以上とも言われ、複数のSNSを使っているケースが多いというのが現状です。

そこで、ご家庭におかれましては、先日の誘拐事件等の犯罪等に巻き込まれることがないように、お子さんへのSNS利用に関する注意喚起を徹底していただくようお願いいたします。その際、ニュース等をもとに「SNSでこんなことをすると、こんなトラブルに巻き込まれる」と、ふだんから「SNSに関する犯罪やトラブル」を話題にお子さんとの会話の時間をとっていただければ幸いです。

※裏面に、総務省「インターネット利用におけるトラブル事例集」を掲載していますので、お子さんと話をするうえで参考にしてください。

心のよりどころだったSNS上の知人による誘い出し

ネットで出会った相談相手に会いに行き



そのまま連絡がつかなくなってしまった



※ DMは「ダイレクトメッセージ」。SNSの画面上ではなく、直接メッセージをやりとりすること。

辛いことが続き、SNSにつぶやいていたWさん。
気持ちが落ち着くメッセージをくれる人に出会い、
DMでやりとりするうちに、会いに行くことになりました。

出かけたきり家に帰ってこなくなり、警察に相談。
誰にも言わずに会いに行ったことは、Wさんの
SNSの記録を確認して初めてわかったのです。

考えてみよう！

ネットだけの交流では、顔、姿、気持ち、メッセージ、どれも本物かどうかわかりません。それなのになぜ、ネットで知り合った人を信じたり頼りにしたりしてしまうのでしょうか？

A. 本当は誰に聞いてほしい？

- 気持ちを察してくれる友人
- じっくり話を聞いてくれる家族
- 何でも相談したいと思える先生がいてもネットで相談しますか？身近な誰かに寄りかかりたいと思う気持ちを失わないで！

B. 知らない人のほうが便利？

自分を直接知っている人と、ネットだけでやり取りしている人。優しい言葉をかけられて嬉しいのはどっち？ ネットなら余計な詮索をされずに済み、都合がいいだけではありませんか？

C. どうしてもSNSを使うなら

本当に親身になってくれる人もいますが、上辺だけの人も山ほど。どうしてもSNSに頼りたいのなら、「深入りはしない」「DMを警戒し、個人的なやり取りはしない」を徹底しましょう。

解説

成長過程で生じる不安定さとリスク志向が利用される危険

多くの子供がSNSを活用し始めるのが、仲間との関係が大事で、かつ、悩みもモヤモヤすることも多い思春期の頃。感情の行き違いはしばしば起こり、辛さやイラ立ちなど、リアルな生活で受けた精神的ダメージをネットにぶつけることで自分の気持ちをコントロールしようとする子も少なくありません。

でも、そんな心理状態や判断の甘さを知って、近づいてくる危険な大人もいます。ネットの向こう側のいい人が悪い人かもしれないことを知りつつ、リスクよりもそのときの感情を優先させてしまう時期。ネットで知り合った人に深入りしないよう「ここまで！」の限界を話し合い、意識して使うことの安全性を理解させましょう。

ワンポイント アドバイス

ネットの向こう側に救いを求めたがる時期。子供の言葉に耳を傾け、気持ちに寄り添い、相談できる関係を保つことが最善の予防策です。